

岐阜県笠松町にオニバス

磯部 亮一

会報No. 30号(1987)に岐阜県南端に位置する海津地方のオニバス群落について現況を報告した。その後、関市百年公園にある岐阜県博物館の安藤志郎氏から「県内でオニバスの新産地が発見された」と所蔵標本の提示がなされた。それで、再びここに岐阜県内の生育地として追加報告しておきたい。

標本の採集地は、岐阜県羽島郡笠松町無動寺地内トンボ池とのこと(1987年10月20日採集)。11月21日、筆者らは当該地を訪ねたが時期的に遅かったので、オニバスの個体は確認できなかった。僅かに発芽後の種子殻が岸边に漂着していた。

このトンボ池は木曾川中流右岸の河川敷にあって、大正時代まで木曾川の本流が流れていた河跡湖である。堤

防に沿って細長い池が5カ所ほどあり、汚水の流入がなく、本流からの湧水で自然状態が保たれエビモ・フサモ・コカナダモ・ヒシ類など多くの水草が生育している。

近年、トンボの仲間が30余種類生息確認されたことから、笠松町では付近一帯を整備造成して「トンボ保護地域」に指定し保全している。オニバスの突然発生については、造成工事などによる埋没種子からの発生例もあり、或いは他から移入されたことも考えられるが、詳しいことは判らない。何れにしてもオニバスは周辺の愛知、三重両県で消滅が伝えられている水草なので、岐阜県では海津地方と共に貴重な生育地にちがいない。

トンボ池のオニバス開花期に、地元の新聞が報道していた。岐阜日日新聞S62. 9. 3付き(コピー)を本会員の中井三従美さんから頂いたので紹介しておきたい。



紫色の美しい花を開いたトンボ池のオニバス＝羽島郡笠松町無動寺

9.3 珍しいオニバス開花
笠松町のトンボ池
 羽島郡笠松町無動寺地内の木曾川右岸河川敷にあるトンボ池で、珍しいオニバスの花が咲いた。

オニバスはスイレン科で、スイレンに似ているが葉に多数のトゲがあり、大きいものでは、直径一尺ほどにもなることでこの名が付いたといわれる。かつては県南部で普通に見られたが、トゲのせいか次第に駆除され、今では海津郡海津町と南濃町の一部に見られる程度。トンボ池には昨年まで記録がなかったのが、ここになってこつ然と自生しているのが見つかり、注目されている。

花は大きな葉の割には、小型で四つ程度。トゲ立ったガクのツボミが数多く見られるなか、このうち一つが美しい紫色の花を開いているのが二日までに見つかった。当日の間、次々と開花が楽しめ